

Appointment and Web-based Communication Division

2022年10月

秋号

—Vol.48—

連携室 だより



人事消息



新任医師

令和4年7月1日付

麻酔科
やまぐち

山口 りさ



新任医師

令和4年9月1日付

脳神経外科

いわま じゅんや

岩間 淳哉

退職者

令和4年6月30日

脳神経外科

西村 中

令和4年6月30日

麻酔科

飯野 達也

理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、質の高い医療を提供します

基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
2. 急性期医療を中心に安全で安心できる診療を進めます
3. 救急医療の充実に努めます
4. 地域の医療機関、介護・福祉施設との連携を推進します
5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
6. 職員の教育、研修を充実させます
7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

私たちは患者さまの権利を尊重します

適切に医療を受ける権利

医療に関して知る権利

医療行為を自分で選ぶ権利

プライバシーを保障される権利

人権を尊重される権利

セカンドオピニオンを受ける権利

旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

1. 私たちは、来院される方と職員に笑顔であいさつをします
2. 私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
3. 私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
4. 私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
5. 私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

編集後記

「新型コロナウイルス感染症対策」では自分を守るため、自分から排出するウイルス量を少なくするためにもマスクは隙間のないように装着しましょう。また変異株のオミクロン株では重症者は少ないものの感染者自体は多いとのこと。院内感染は患者さんへの多大な不利益、地域医療への影響や職員の健康への影響が懸念されることから、感染症対策を徹底していきましょう。

発行

旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号

tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)

URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email renkei@asahikawa.jrc.or.jp

ドクターヘリ機種変更

副院長・救命救急センター長
小林 巖



写真1. 旧機種
MD 902 Explorer (2009.10~2022.3)



写真2. 新機種
BK 117-C2(2022.3~)

道北ドクターヘリは2009(平成21)年10月より運航が開始され、本年度で14年目を迎えております。2022年7月末現在での実績は、

- 延べ要請数 7,784件
 - 出動数 5,310件
 - 総飛行距離 594,024km(地球約5周)
 - 総飛行時間 3,518時間18分
- を記録しております。

北海道のドクターヘリの運航は道北の他に、札幌市を中心とした道央ドクターヘリ(手稲渓仁会病院が運航)、釧路市を中心とした道東ドクターヘリ(市立釧路総合病院が運航)、函館市を中心とした道南ドクターヘリ(市立函館病院が運航)の3つの運航圏があります。その中でも道北ドクターヘリの運航圏は、16消防本部・60市町村に及んでおり、日本一広いドクターヘリ運航圏を有しております。本年3月まで運航したヘリ機種MD 902 Explorer(写真1)は運航開始時からの機種で、文字通り、道北ドクターヘリの歴史そ

のものでした。MD 902は全長12.37m、全高3.66m、最大離陸重量2,948kg、巡航速度200km/h、搭乗最大人数4名(医師看護師含めて)という概要で、北海道で運航されている機種としては1番小型のヘリコプターでした。その分、小回りの効く使い勝手の良い機種でしたが、MD 902製造が中止されるとの情報もあり、本年3月18日より全国で汎用されているBK 117-C2(写真2)に機種を変更いたしました。

BK 117-C2は、全長13m、全高3.96mとMD 902より少し大きく、最大離陸重量3,585kg、巡航速度240km/h、搭乗最大人数5名(医師看護師含めて)と馬力もひとまわり強いヘリコプターとなります。そのため、ヘリ特有のプロペラ音は少し大きくなります。今年春からは新機種の運航に加え、新しいフライト・ドクターやフライト・ナースも誕生しており、今後も道北ドクターヘリが安全に地域の皆様の医療に役立つ存在であるように頑張っていきたいと考えております。

da Vinci(低侵襲ロボット支援手術)

泌尿器科におけるダヴィンチ手術のご紹介

泌尿器科部長
堀田 裕

2022年4月から泌尿器科で、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使用した内視鏡手術を始めました。2022年9月末までに、前立腺癌に対する前立腺全摘を13例、膀胱癌に対する膀胱全摘を6例、腎癌に対する腎部分切除術を3例行いました。現在まで手術中、手術後のトラブルはなく、安全に手術が行えています。

ダヴィンチによる手術のメリットとして、出血量が少ない、傷が小さいため痛みの期間が短いことが挙げられます。前立腺全摘はここ5年間行っていないでしたが、かつての開腹手術と比べ圧倒的に出血量が少なくなっています。膀胱全摘は今まで腹腔鏡手術で行なっていましたが、ダヴィンチを使用することで出血量は従来以上に少なく、さらに手術時間を短縮することができています。ダヴィンチ導入の効果でしょうか、4月から当科の手術件数のペースは過去最高となっています。

す。これもひとえに多くの患者さんをご紹介いただいている、旭川市内のクリニックの皆様のおかげであり、この場をお借りして感謝申し上げます。現在泌尿器科ではより多くの紹介患者をお受けするべく外来の紹介枠を増やしております。それに伴って再診患者の数は減らす方向に舵を切っており、病状の安定した方や内服薬が決まった方を、積極的にかかりつけのクリニックや自宅近くの泌尿器科クリニックに紹介しております。症状が悪化した場合や手術が必要になった時にはいつでもご紹介いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

地域医療支援病院と地域のクリニックの役割分担はこれから一層進むものと考えております。今後とも旭川赤十字病院泌尿器科をどうぞご最厚いただきますようお願いいたします。



脳卒中患者相談窓口開設のお知らせ

副院長・脳神経外科部長 瀧澤 克己

はじめに、日頃からの病診連携の推進、ご協力に感謝を申し上げます。

今回は、当院に新しく開設される『脳卒中患者相談窓口』についてお知らせさせていただきます。脳卒中は脳の血管の閉塞や破綻によって生じる病気で、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血があり、わが国では死亡原因の第4位、健康寿命を損ねる(寝たきり:要介護5)原因の第1位となっています。高齢化を迎える中、医療費削減の観点からも、脳卒中对策は国の重要な課題であり、2018年12月に「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法(循環器病対策基本法)」が成立し、2020年10月に「循環器病対策推進基本計画」が閣議決定されています。

脳卒中は急性期治療が重要であり、全国どこでも同じ質の医療が受けられる医療体制の整備が進められています。日本脳卒中学会では24時間365日t-PA投与が可能な施設を「一次脳卒中センター(PSC)」として認定していますが、2022年からは24時間365日機械的血栓回収療法が可能な施設を「PSCコア」として認定します。この「PSCコア」認定の施設要件のなかに『脳卒中患者相談窓口』の設置が義務づけられており、当院でも『脳卒中患者相談窓口』を開設したという経緯があります。

当院では年間約900名の脳卒中患者の急性期治療

を行っています。脳卒中患者の治療は急性期のみで完結するわけではありません。回復期、維持期(生活期)いたるシームレスな医療連携が重要で、脳卒中となり後遺症がある患者、家族には生活支援、介護、治療と仕事の両立支援等、継続したさまざまな取り組みが必要となります。行政では介護保険制度や各種福祉サービス、自治体独自の支援制度、等を整備していますが、患者・家族に十分な情報提供がなされていないために、受けられるはずの制度を受けていなかったり、生活上で不都合や疑問があったとしてもどこで相談して良いかわからずに抱え込んでいる、という問題がありました。そもそも医療者側(特に医師)に、これらの様々な制度に関する知識が十分でないことも一因となっています。『脳卒中相談窓口』では、脳卒中専門医が責任者となり、研修を受け脳卒中療養相談士として認定された認定看護師、医療ソーシャルワーカー等が連携し、それぞれの専門性を生かして、患者・家族への情報提供や支援を行っていきます。

『脳卒中相談窓口』の活用により、より充実した脳卒中診療の提供が可能になるものと考えております。とりあえずお困りの脳卒中患者がおりましたら、『脳卒中相談窓口』をご紹介いただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

脳卒中相談窓口担当スタッフ



脳卒中相談支援講習会 受講証



当院初の脳死下臓器提供の報告

医療支援センター
入退院支援室 院内コーディネーター 川崎 昌人



摘出チームの様子

近年、移植医療に関する社会的認知度も高まり、終末期医療における選択肢の一部であるという認識もされつつあります。

当院は救命救急センターを併設しており、臓器提供実施施設の役割を担っております。また2010年よりドナーアクション委員会を設置し、院内コーディネーターや委員メンバーが関係部署と連携し、机上・実働シミュレーションの実施を重ねて臓器提供の院内体制を構築してまいりました。

この度令和4年3月19日に当院では第1例目となる臓器提供を実施し、提供いただいたすべての臓器は移植施設に搬送され、無事に移植手術をすることが出来ました。令和4年4月25日には臓器提供事例の振り返りを実施し、提供体制における新たな課題を明確化しました。振り返りでは、今後の提供に活かすため移植コーディネーターをお招きし、病院長やドナーアクション委員長をはじめ、院内コーディネーター、委員、各部門関係者が参加し課題の検討を行いました。実際の脳死下臓器提供とその振り返りを経験して、支援チームとして抱える課題に気づき、その課題ひとつひとつを解決できるよう体制整備を繰り返し行い、的確な臓器提供の実施が可能となるように院内全体で協働していくことが重要であると感じております。

脳死下臓器提供において、法的脳死判定を実施し脳

死を人の死とすることは倫理的な問題を含み、ご本人の意思表示だけでなく、ご遺族の決断に至る思いを考えると、臓器提供実施施設として課される使命は重大なものであると認識しております。

最後になりますが、臓器提供には院内の連携はもとより、移植コーディネーター、メディカルコンサルタント、摘出チーム、検視官など院外の各関係機関との連携が不可欠です。

院内体制整備とともに各関係機関との連携が的確な実施を可能とするものではないかと思っております。今後は微力ながら移植医療の推進に貢献できるような医療機関を目指し、更なる体制整備を進めてまいりたいと思います。

臓器提供事例振り返り





訪問看護ステーションについて

訪問看護ステーション管理者 五林 郁子

旭川赤十字訪問看護ステーションについてご紹介します。平成6年4月に旭川赤十字病院の訪問看護室として設置され、3名のスタッフで訪問看護活動を開始しました。同年12月に旭川赤十字訪問看護ステーションを開設し、今年で29年目を迎えました。今年10月1日現在、看護スタッフは8名に増え、24時間対応できる体制を整えています。登録利用者は103名(10月1日現在)、旭川市全域を訪問範囲とし月に約450件訪問しています。訪問看護指示書は旭川赤十字病院の他に、約3割は市内の病院やクリニックからいただいています。

利用者の診療科は、神経内科、糖尿内分泌内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、脳外科などです。疾患は、神経難病、糖尿病、がん疾患、心不全などで、人工呼吸器管理、胃瘻、CVポート、PICCなどの処置が必要な方がいらっしゃいます。

神経難病の利用者には、往診医と訪問看護師、入院が必要な時期は赤十字病院が連携して在宅療養を支えています。また、ステーションには血糖コントロールに係る薬剤投与関連の特定行為研修を終了した看護師が在籍しており、赤十字病院だけでなくクリニックの先生とも連携し、手順書に基づ

きインスリンの投与量の調整に携わっています。受診を待たずに高血糖・低血糖について相談し、インスリン調整ができるため、利用者からは大変喜ばれております。血糖コントロールでお困りの方がいらっしゃいましたらご相談ください。

ここ数年はコロナ禍という背景もあり、癌末期の方など最期まで在宅療養を希望する方が増え、在宅看取り件数は年々増加しています。わずかな間だけでも退院して自宅で過ごしたいという希望にもできるだけ対応しています。そのため短期間の利用も増えている傾向です。また、認知機能低下・独居高齢者・老々介護などの背景があり自宅で最期までと希望しても難しいケースもあります。退院支援看護師、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、地域包括支援センターと連携しながら、その方にとって最適な選択となるように支援しています。

コロナが猛威を振るい気の抜けない日々が続いていますが、感染管理対策をしっかりと行いながら、安全で安心できる看護を提供できるように日々奮闘しています。皆様、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

認定造血細胞移植コーディネーター

入退院支援室係長 大西 理樹

入退院支援室の大西と申します。この度、日本造血・免疫細胞療法学会で認定している認定造血細胞移植コーディネーター(HCTC:Hematopoietic Cell Transplant Coordinator)を取得しました。

造血幹細胞移植コーディネーターは造血細胞移植が行われる過程の中で、ドナーの善意を生かしつつ、移植医療関係者や関連機関との円滑な調整を行うとともに、患者・ドナー及びそれぞれの家族の支援を行い、倫理性の担保、リスクマネジメントにも貢献する専門職と定められています。

造血幹細胞移植に関わるコーディネーターには2種類あり、医療機関に所属するHCTCと日本骨髄バンクに所属するドナーコーディネーターがあります。後者は骨髄バンクドナーと採取施設側に関わりますが、HCTCは患者、ドナー(血縁・非血縁)、患者・ドナーのご家族、移植チームなど広い領域に関わります。

造血幹細胞移植には、自分の造血幹細胞をあらかじめ採取しておき、その後適切な時期に移植する自家移植と他人であるドナーから提供された造血幹細胞を用いる同種移植の二種類に分けられ、特に同種移植は複雑性の高い治療法で、健康人であるドナーに造血幹細胞採取という侵襲的な医療行為を行う必要があるということに、通常の医療とは大きな違いがあります。そのため、多数の関係者の様々な利害が生じ、またプロセスも複雑なものとなります。例えば、血縁ドナーは突然提供の話が提示されるため、無言の懇願や強制になりやすく、ドナー候補となる兄弟姉妹は、それぞれ置かれている環境も様々で、配偶者や子供がいる場合、意思決定の影響は複雑に絡み合い、兄弟を助けたいという思いと提供することによって健康を損なうことや入院等によって生活や仕事を中断することに対する不安などが相反するため様々な葛藤が生じることになります。また、移植は1人の患者さんに対して、骨髄移植、臍帯血移植、末梢血幹細胞移植など選択肢がいくつもあり、費用なども異なり経済的負担も多くなる場合があるため、HCTCの関与が必要となります。

私はHCTCとして、第三者的立場で、患者・ドナーの権利擁護者となり、適切なプロセスを経て、安心して移植が行えるよう中立的な立場から、患者やドナー、それぞれの家族の自発的な意思決定を支援していきたいと思っています。

今後も地域に貢献できるよう努力を続けていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



旭川赤十字病院 総合診療科のご案内



何科に紹介
したら良いか
わからない…

総合的に
診てほしい…

【予約に関するお問い合わせ先】
〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号
旭川赤十字病院地域医療連携室 電話0166-22-8111(代表)

受付曜日 月曜日～金曜日(祝休日を除く) 受付時間 8時30分～15時00分